

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10

国立公文書館	
分類	③ 赤
配架番号	3 A
	14
	33-24

4335

SHIPPING ADVICE# 10112  
SACK # 9  
ITEM # 60

試  
製  
機  
動  
五  
十  
七  
耗  
砲  
説  
明  
書

国立公文書館	
分類	
配架番号	
	33-24

昭和十七年十二月  
第一陸軍技術研究所調製

試製機動五十七耗砲說明書目次

總 說

第一章	砲身	二
第二章	閉鎖機	四
第一節	閉鎖機ノ構造	四
第二節	閉鎖機ノ機能	六
第三章	座退復坐機	七
第四章	搖架匣	二
第五章	擊發機	四
第一節	擊發機ノ構造	四
第二節	擊發機ノ機能	八
第六章	小架	八
第七章	大架	二〇

第八章	高低照準機	二四
第九章	方向照準機	二四
第十章	照準具	二五
第十一章	脚	二八
第十二章	防楯	三一
第十三章	車輪	三一
第十四章	部品及豫備品	三一
第二篇	取	三一
第一章	分解及結合	三一
第一節	通則	三一
第二節	砲身	三三
第三節	閉鎖機	三五
第四節	座退復坐機	四〇
第五節	大架	四五
第二章	射擊準備及運行	四七

第三章	運行上ノ注意	五〇
第四章	射擊上ノ注意	五三
第一節	射擊前ノ注意	五三
第二節	射擊間ノ注意	五五
第三節	射擊后ノ注意	六六
第三篇	保存	六七
第四篇	檢査	六七
第一章	一般檢査	六七
第二章	臨場檢査	六八
附表第一	試製機動五十七耗砲主要數量表	
全 第二	試製機動五十七耗砲豫備品表	

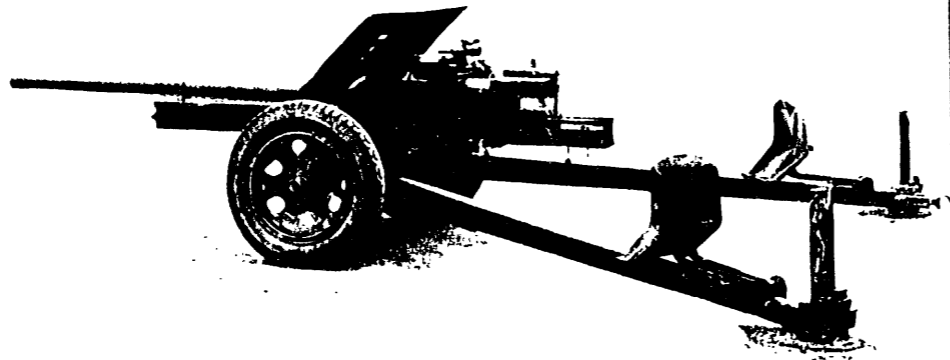
試製機動五十七耗砲說明書目次終り

試製機動五十七耗砲説明書

總 說

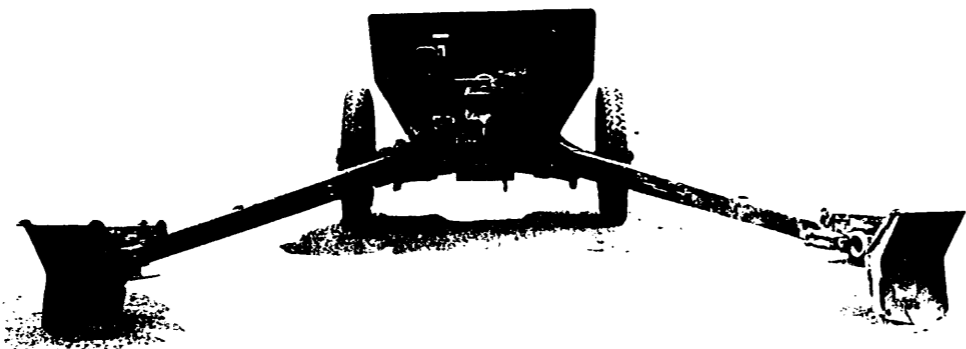
- 第一 本砲ハ敵ノ戰車及裝甲車ノ撃滅ヲ主目的トセル大威力對戰車砲ニシテ機械化部隊ト行動ヲ共ニセシムル爲高速度運行ニ耐ヘ得ル如ク機構バね及「ゴム」車輪ヲ裝ス
- 第二 本砲ハ特殊ノ撃發裝置ヲ附與シ機構ヲ簡單ニ設計セラレアリテ教育訓練ヲ容易ナラシメ射撃ノ際ハ開脚スルコトニヨリ運行姿勢ヨリ射撃姿勢ニ變換セシメ得ル如キ裝置ヲ具備ス
- 第三 本砲ハ「砲身」、「閉鎖機」、「駐退復坐機」、「搖架」、「發機」、「照準具」、「小架」、「大架」、「高低照準機」、「方向照準機」、「照準具」、「脚」、「防楯」、「車輪」及所要ノ屬品ヨリ成ル
- 第四 運動ノ爲ニハ脚尾環ヲ牽引車ニ連結シテ運動スルモノニシテ砲身ノ動搖ヲ防止スル爲脚ニ砲尾托架ヲ具備ス
- 第五 屬品及彈藥箱等ハ牽引車又ハ自動貨車ニ積載ス

第一圖  
放列砲車



31-251-10

第二圖



31-151-17-2

第六 本砲ノ主要数量附表第一ノ如シ  
第七 本砲ノ構造ハ第一圖乃至第二圖ノ如シ

第一章 砲身

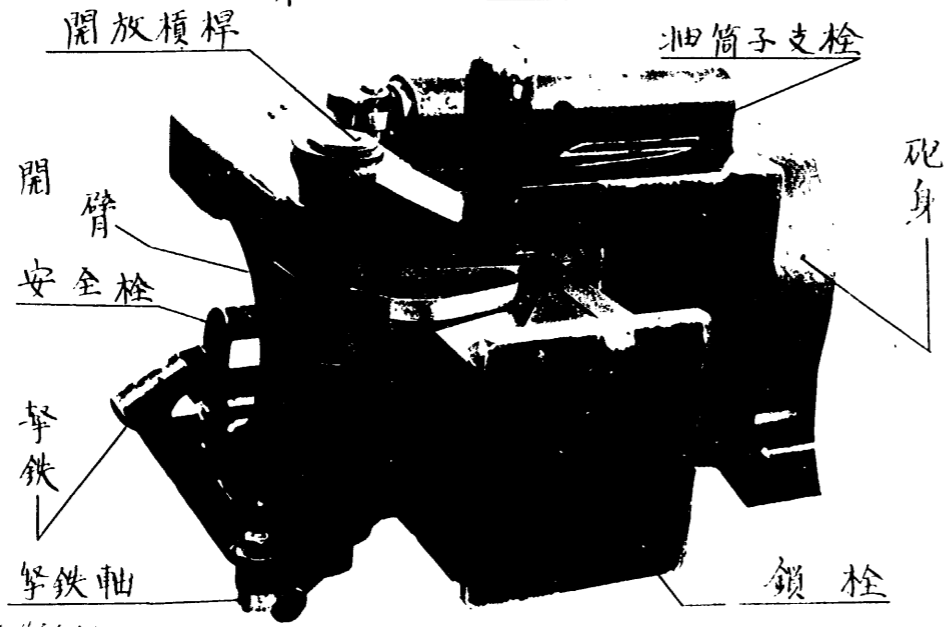
第八 砲身ハ單肉自緊砲身ニシテ其ノ後端ニ砲尾ヲねじ込ミ其ノ前方三ヶ所ニねじ著セル準爪(四)(四)ノ下面ハ準溝ヲ成形シ夫々内被、防塵板、塵拭ヲ有ス準爪(四)ニハ衝爪ヲトリツク砲尾ハ閉鎖機室ヲ成形シ下方垂下部ハ駐退復坐機連結桿ト連結ス

第二章 閉鎖機

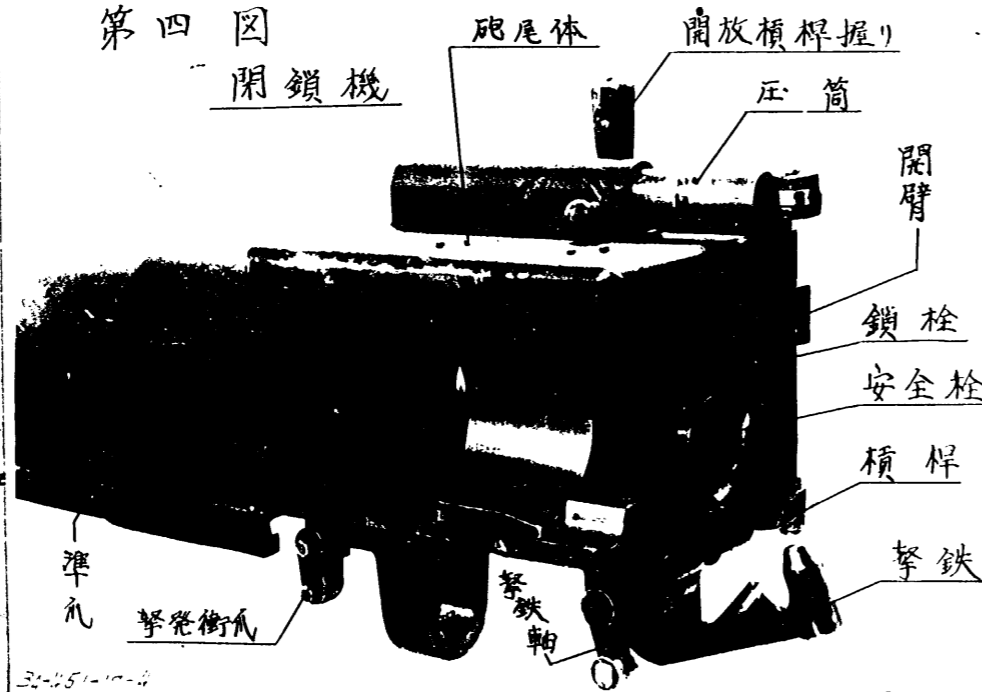
第一節 閉鎖機ノ構造

第九 閉鎖機ハ自動開閉水平鎖栓式ニシテ擊鐵ハ槌打式ナリ、其ノ結構ハ第三圖乃至第四圖ノ如ク砲尾結合体及搖架結合ノ開放準板、托架等ヨリ成リ右方ニ開放ス、開放準板、托架ハ第九圖ノ如シ

第三圖 閉鎖機



第四圖 閉鎖機



第二節 閉鎖機ノ機能

第十 鎖栓ノ開閉作用

安全栓ヲ發火ノ姿勢ニナシ開放槓桿ヲ旋回セハ「ころ」部ハ壓筒ヲ介シテ閉鎖ばねヲ壓縮スルト共ニ槓桿軸ヲ旋回ス槓桿軸ノ旋回ニ伴ヒ閉管ハ石底面ヲナシ其ノ頭部ニテ鎖栓ヲ右方ニ開放ス、此ノ時鎖栓前面ニアル段部ハ抽筒子ニ作用シ抽筒子支栓ばねノ作用ト相俟ツテ之ヲ旋回シ抽筒子ノ爪部ヲ鎖栓ノ鉤部ニカケ閉鎖ばねノ彈力ニ抗シテ鎖栓ハ開放ノ姿勢ニテ停止セラル

開放槓桿ハ鎖栓閉鎖ノ時舊位ニ復ス

閉鎖作用ニ次ノ二種アリ

一 彈藥筒ヲ裝填セハ抽筒子ノ抽筒部ハ藥炭起緣部ニヨリ推進セラレ抽筒子ノ爪部ハ鎖栓ノ鉤部ヨリ脫ス

茲ニ於テ閉鎖ばねハ伸張シ槓桿軸及之ニ關聯セル閉管ヲ左旋回スルヲ以テ鎖栓ハ閉鎖ス

一 彈藥筒ヲ裝填スルコトナク閉鎖機ヲ閉鎖セントスル時ハ砲尾上面

第十一 自動開放作用

閉鎖ばね右方ノ抽筒子支栓ヲ摘ミ外方ニ引ケハ之ニ結合セラレアル抽筒子ハ前方ニ旋回セラレ抽筒子爪部ハ鎖栓ノ鉤部ヨリ脫シ第一項ト同作用ヲ以テ鎖栓ハ閉鎖ス

本作用ハ危寄防禦裝置ノ一トシテ且又迅速ナル閉鎖ヲ目的トスルモノニシテ鎖栓開放ノ際ハ支栓ばねヲ以テ抽筒子ヲ旋回シアルモノトス

第十一 自動開放作用

彈丸發射後砲身後坐スルヤ槓桿軸下部ニ結合セラレアル槓桿ノ「ころ」ハ開放準板ノ後端ヲ押シテ後退スルモ砲身復坐ニ際シテハ開放準板ハばねニヨリ後端ヲ外方ニ開キアリテ槓桿「ころ」カ之ニ接觸内方曲面ニ沿ヒテ移動スルヲ以テ槓桿及之ニ關聯セル槓桿軸及閉管ハ右旋回シ鎖栓ヲ開キ空藥炭ヲ抽出ス

(注意)

一 發射ト同時ニ鎖栓ノ砲尾下面ニ置錠押金及同ばねヲ裝シアリ

一 發射トシテ砲尾下面ニ置錠押金及同ばねヲ裝シアリ



第十二 安全作用

安全作用ハ安全栓ニヨリ彈藥筒裝填時ノ安全ト擊鐵止金ニヨリ砲身

後復坐間ノ安全ノ二作用アリ

一、彈藥筒裝填時ノ安全ハ擊鐵ノ安全ト次ノ如キ閉鎖機ノ安全トア

リ（擊鐵機ノ安全ハ後述ス）

二、安全栓ハ押金及押金付ニ依リ其ノ位置ヲ保持セラレ安全栓ヲ

安全ニスルニハ之ヲ旋ニ旋回セハ足ルモノニシテ第一「一」ニ

旋回シ來ルモ安全栓ノ凸起部ニ支持セラレ擊鐵ヲ撞打スルニ

至ラス、第二「二」ニ下部ノ餘部ハ擊鐵ヲ上方ニ持來シ其ノ中央

又狀形梁ニ維持スルモノニシテ使用セサル時又ハ運行間之ヲ便

用ス

三、安全栓ヲ安全ニセハ擊鐵ノ運動ヲ停止セシムルト共ニ握リハ擊

鐵体部ヲ被フ如ク位置シ外部ヨリ不時ノ衝撃等ニヨル危害ヲ防

止ス

四、安全栓軸部ハ安全ニスルコトニヨリ旋回シ先端切欠部ハ鎖栓ノ

同室内ヲ旋回シ圓台部カ鎖栓ニ入ルヲ以テ鎖栓ヲ開クコト能ハ  
サラシム

一、砲身後復坐間ノ安全ハ擊鐵止金ニヨリ營マレ砲身完全ニ復坐セサ  
ル時ハ擊鐵ヲ撞打シ得サル如キ裝置トナシアリテ後復坐間ニアリ  
テハ止金カ擊鐵軸ノ相當孔ニばね力ヲ以テハマリ込ミ擊鐵ノ仰起  
ヲ防止ス

仍チ搖架匡後方左側内面ニトリツケアル準梁ハ砲身完全ニ復坐セハ  
擊鐵止金ヲ押シ上ケ擊鐵軸トノ鎖止ヲ解キ擊發姿勢ヲトル

第三章 駐退復坐機

第十三 駐退復坐機ハ搖架内ニ包藏

セラレ第五圖ノ如キモノヨリ成リ

第六圖ノ如キ構造ヲナス

第十四 駐退復坐機ノ機能ハ第六圖

参照)

彈丸發射セラルルヤ砲身ハ之ニ連

結セラレアル駐退管ヲ復坐ばねヲ

壓縮シツツ後坐セシム

此ノ時駐退管ハ之ニ連結桿ヲ介シ

テ連結セラレアル節制桿ヲ伴ヒ後

退スルヲ以テ活塞桿外部ニアル液

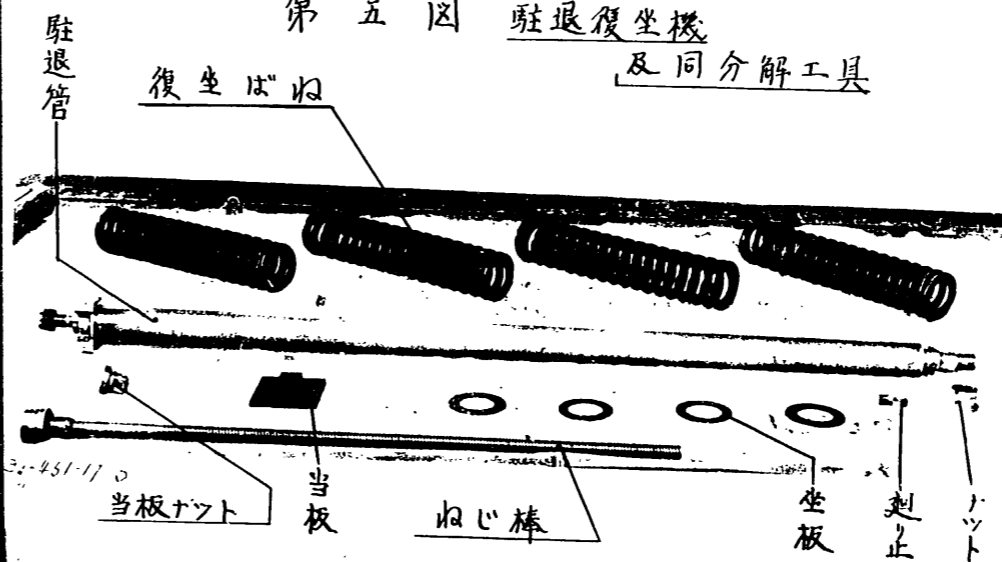
ハ大部分ヲ以テ活塞桿ノ八個ノ漏

孔ヲ通り節制環ヲ後方ニ流出スル

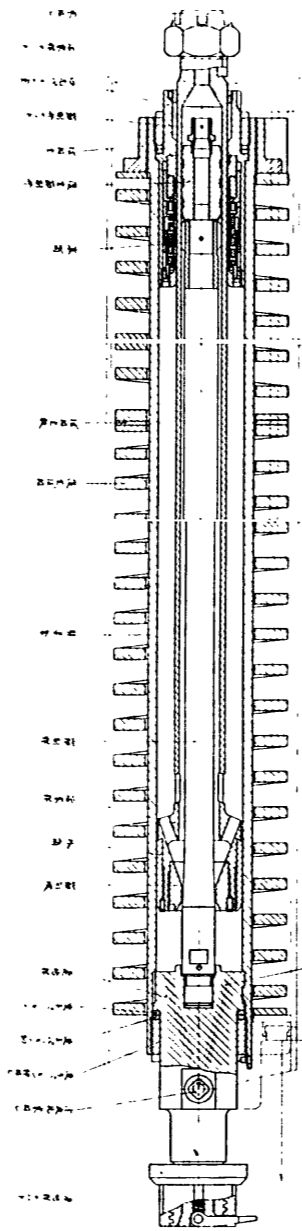
ト共ニ一部ハ活塞桿梢圓漏孔ト相

第五圖 駐退復坐機

及同分解工具



第六圖 駐退復坐機



34-451-17-17

俟ツテ活塞桿ノ内面ヲ逆流シ準筒及復坐節制ヲ通過シ節制桿前方ニ流出ス後坐ノ増加ニ伴ヒテ節制桿ノ徑漸増シ節制環ノ漏孔零ニ至ル爲後坐終ル

後坐終期ニ於ケル復坐節制環ハ活塞桿内徑後方ニ漸増シアル爲節制ノ作用ヲ爲ササル位置ニアリ

砲身ノ後坐終ルヤ復坐はぬハ其ノ彈撥力ニ依リ砲身ヲ復坐セシム此ノ時活塞桿後方ノ液ハ節制環ノ漏孔ヲ逆流スルト共ニ復坐節制環ハ活塞桿内前方ニ在ル液ヲ壓排シツツ前進ス

復坐ノ終期ニ近ツクヤ活塞桿内徑漏孔零トナルヲ以テ復坐節制環内ノ漏孔ヨリ準筒前端ノ漏孔ヲ通過スルコトノミニヨリ液ヲ壓排シ復坐終期ニ於ケル激突ヲ防止ス

添クシテ各部ハ發射前ノ位置ニ復歸ス  
第四章 搖架 匣(第七圖參照)

第十五 内部ニ座退復坐機ヲ包藏シ照準具及砲身ト連結ス、上部ニ砲身ヲ取セ中央部ノ搖架耳ニヨリ小架ニ支持セラル、前方ニ搖架帽ヲ

トリツケ搖架耳後方ニ照準具ヲ裝着シ其ノ後方左側面ニ擊發機ノ主要部及後坐尺ヲ、右側面ニ擊發機引鐵及閉鎖機開放準板ヲトリツク下部ハ高低照準機齒齒ニ支持セラレ小架ト連結ス  
細部ノ構造及組成ハ第七圖乃至第九圖及第十六圖ノ如シ

第五章 撃發機

第一節 撃發機ノ構造

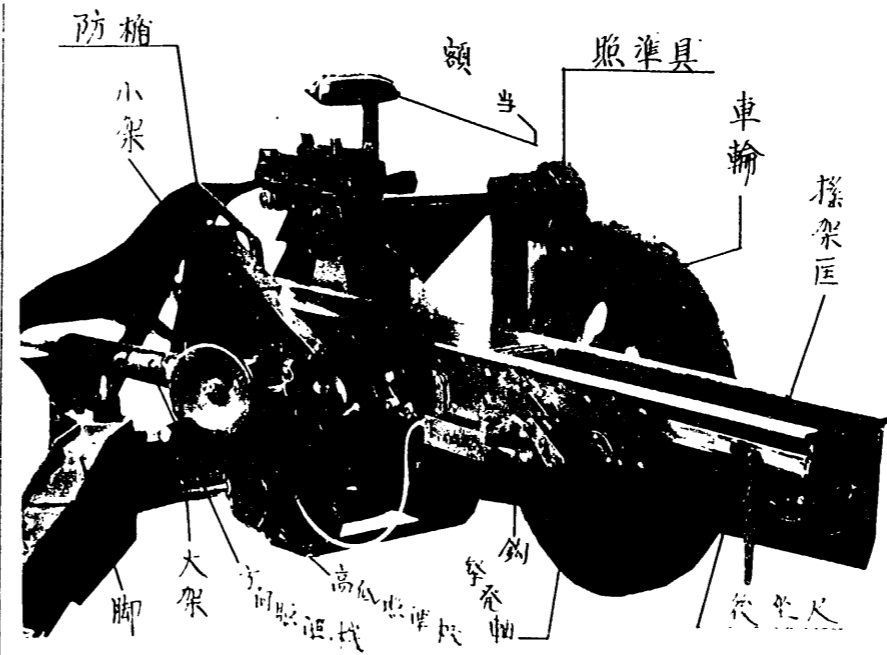
第十六 撃發機ハ第七圖乃至第九圖ノ如キモノヨリ成ル

第二節 撃發機ノ機能

第十七 撃發作用

撃發機ノ安全徐ヲ發火ノ位置ニナシ第七圖ノ桿ヲ押セハ之ニ連結セル誘導環ヲ以テ同位ニ壓入スルト共ニ誘導環ニ連結セル傳動桿ヲシテ軸ヲ中心ニ旋回セシメ可機軸ヲ牽引ス  
可機軸ニ固受ヲ以テ結合セラレアル連結桿ハ前方ニ引

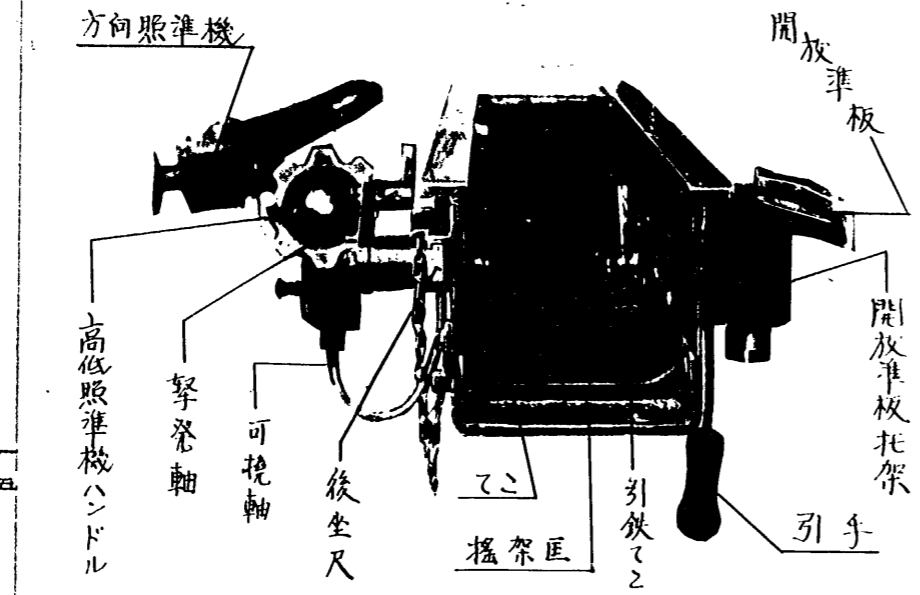
第七圖



カレ他端ニ連結スル軸ニシテ下方前方ニ旋回セシム

茲ニ於テ撃發軸托筒ニ付ト共ニ連結セラレアル撃發軸ハ節トノ節止ヲ解カレば力ニヨリ反張旋回シ他端ニ揺架匡ヲ介シ連結セラレアル「てこ」(第八圖)ハ閉鎖機撃發軸とろ部ヲ後方ニ(第四圖)行撃發同セシメ之ニ連結スル撃發軸ヲシテ撃發後部ヲ打發火セシム  
撃發機ノ厚等ノ爲撃發不可能ナルトキハ第九圖ノ如ク

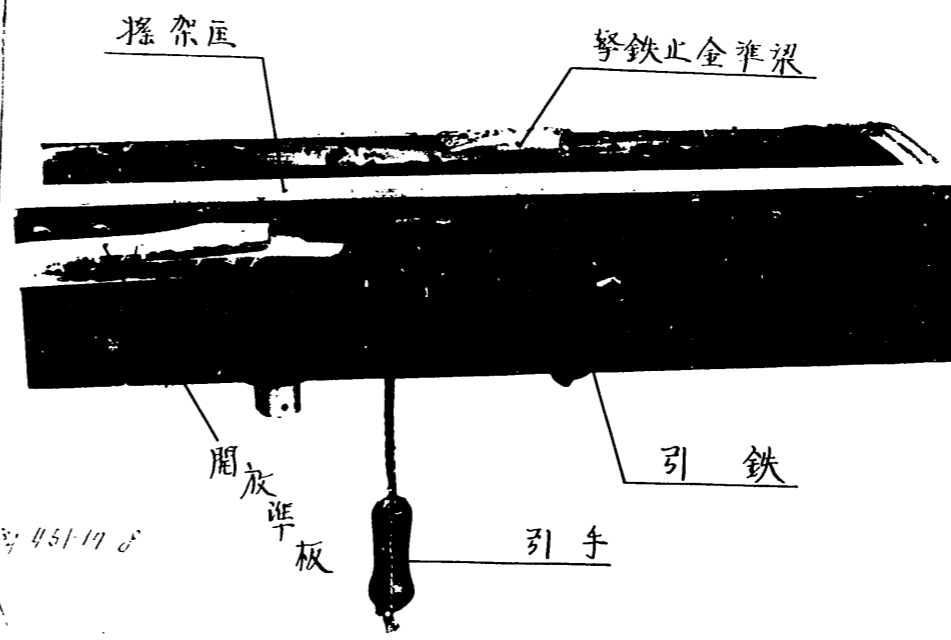
第八圖



34-451-17-7

擧架匡石例ニトリツケアル  
 引鐵ヲ使用スルコトヲ待  
 仍チ別擊ニ方リテハ擊發軸  
 ヲ仰ヨリハツシ後方ニ九〇  
 度旋回セシメタル位置ニ於  
 テ擊發軸「てこ」ヲ更ニ旋  
 回セシメ左側ノ擊發孔ヲ一  
 致セシメタル後中央側面  
 部ニおじ込ミアル止發ヲお  
 じ戻シ比ノ孔ニおじ込ミ擊  
 發機ト擊發トノ連發ヲ斷チ  
 タル上擧架匡右側ニトリツ  
 ケアル引鐵ニ引手ヲカケ後  
 方ニ引ケハばねヲ壓スルト  
 共ニ引鐵てこヲ後方ニ旋回

第九圖



第十八 擊發準備作用

セシメ之ニ接シアル擊發軸ノ右方をろヲ衝擊旋回セシメ之ニ連結  
 スル擊發機ヲシテ擊發後端ヲ槓打發火セシム  
 第一砲ノ發射終了后次彈ノ擊發ニ對スル擊發機ノ準備作用ハ砲尾  
 左側ニトリツケアル擊發衝爪之ヲ營ム(第四圖参照)  
 仍チ擊發軸ノ先端ニハてこヲおねト共ニ裝シアリテてこハ後方ニ  
 旋回スル如クナシアリ  
 茲ニ於テ砲身後坐スルヤ擊發衝爪ハ擊發軸てこヲ旋回シテ通過ス  
 ルモ復坐ニ方リテハばねニヨリ舊姿勢ニ復シアルてこヲ伴ヒ擊發  
 軸ヲ前方ニ旋回セシム  
 此ノトキ發射ト同時ニ高低照準機押桿ヲ離スコトニヨリ押桿ヨリ  
 飾迄ノ各機關ハ各ばねノ總撥力ニヨリ舊姿勢ニ復シアルヲ以テ擊  
 發軸ハ飾ニ飾シ擊發機ハ擊發てこノ作用ヲ絶タルルヲ以テ自重ニヨ  
 リ下方ニ旋回ス  
 茲ニ於テ諸機關再ヒ擊發前ノ姿勢ニ復ス

ニ引手ニヨリ第一項ヲ發射シタルトキノ準備作用ハ引手ヲ離スコト  
ニヨリばね力ヲ以テ蓄勢ニ復ス

第十九 安全作用

擊發機安全栓ヲ安全位置ニナストキハ安全爪ハ發射機桿相當部ニカ  
カリ押桿ヲ押ス能ハス  
故ニ擊發機ニヨリテハ發火セサルモ引機ニ衝撃ヲ與ヘタル場合等ニ  
於テハ發火スヘキニ付完全ナル安全ハ安全栓ノ併用ニ依リテ待ラル  
ルモノトス

第二十 避害作用

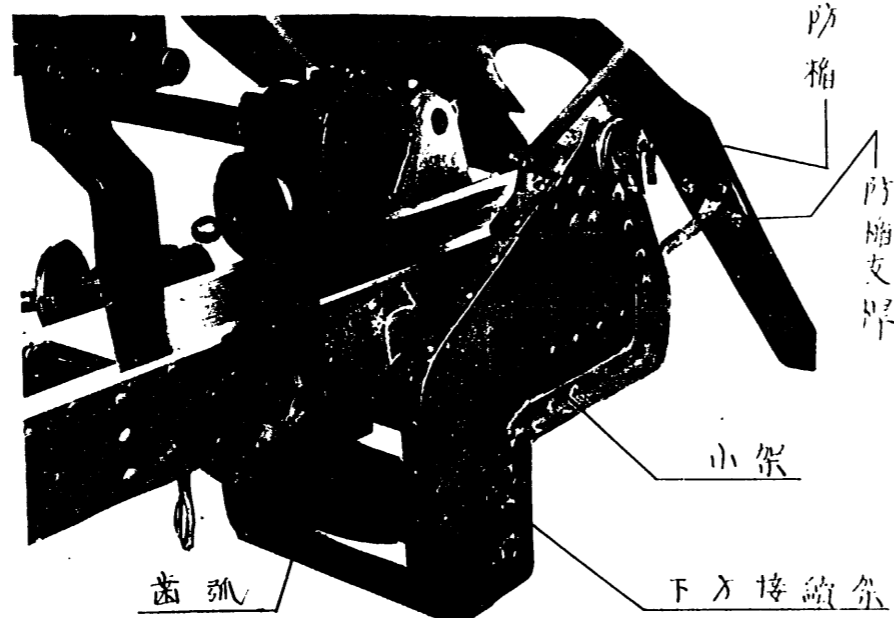
引手ヲ使用スル場合擊發機ト發射機トノ聯ヲ解ク爲ノ接置トシテ止  
浴アリテ第十七第二項ニ詳述シアル操作ヲ忘却セルトキ或ハ各部ノ  
機能不良ニシテ擊發機力能ニカカリアルトキハ發射ニ方リ擊發機爪  
カテコニ衝突シ破損ノ虞アル爲衝爪ニばねヲ裝シ前方ニ旋回避害ス  
ル如クナシアリテ危険ヲ防止シアリ

第六章 小 架

第二十一 小架ハ第十圖ノ如キ

構造ヲナシ上部ハ蓋架耳室ヲ  
以テ蓋架ヲ支持シ左右兩側板  
ノ上方及前方部ニハ緩衝セラ  
レアル防楯支桿ニヨリ防楯ヲ  
トリツク  
架体ハ下方接續架ト相俟ツテ  
大架ヲ貫通之ヲ連結ス  
左方側板ニハ方向照準機支桿  
ヲトリツケ方向照準機ヲ連結  
シ後方垂下部ニハ高低照準機  
ヲトリツケ齒弧ハ蓋架ニ連結  
ス

第十圖



第二十二 大架ハ第十一圖乃至第十二圖ノ如キモノヨリ成リ小架下部ニ貫通シ脚頭架ヲ以テ小架及脚ニ連結ス脚頭架ノ前方ニハ之ト併行シ脚頭ヲ以テ車軸ヲ連結ス、車軸ノ下部ニハばねヲ裝着シアリテ曲軸、軸筋ト夫々連結シ車輪軸ヲ介シテ車輪ニ連結ス

第二十三 脚頭架ノ兩端ニ近ク開脚制限板ヲ夫々トリツケ開脚ノ制限ヲナシ左方制限板ノ内方上面ニ方向制限板ヲトリツケ小架ニ對スル方向ノ制限ヲナス

仍テ方向制限板ハ(〇)型ヲナシアリテ小架右極限ニ達スルトキハ手前ノ斜面ニ側板カ接觸シ左極限ニ達スルトキハ前面ノ斜面ニ接觸ス兩端面曲軸ニ接觸スル部ニハ副板ヲトリツケ運行ニ方リテノ摺動部ヲナス

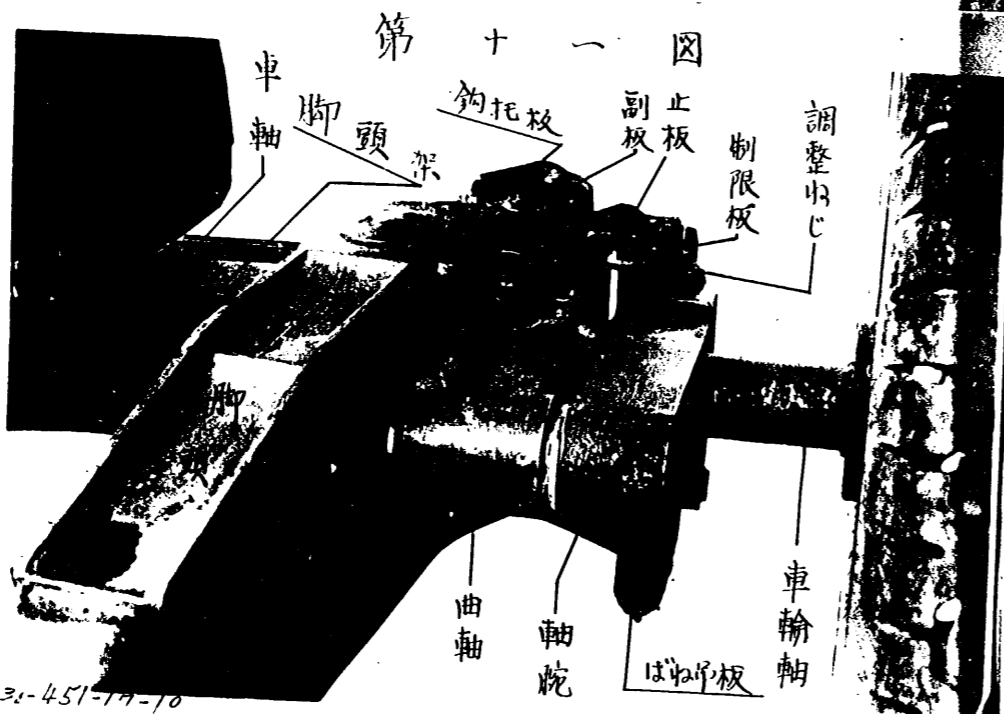
第二十四 車輪ノ兩側ニ軸筒ヲ介シテ曲軸ヲトリツケ中央部下面ニハばねヲトリツケ

兩端ニ近ク脚頭架開脚制限板ニ夫々接觸スル部ク凸起部ヲ有ス

第二十五 曲軸ハ車輪ニ連結セラレ一節ニハ軸筒ヲ介シ(乙)ヲ以テ脚頭架ニ結合ス

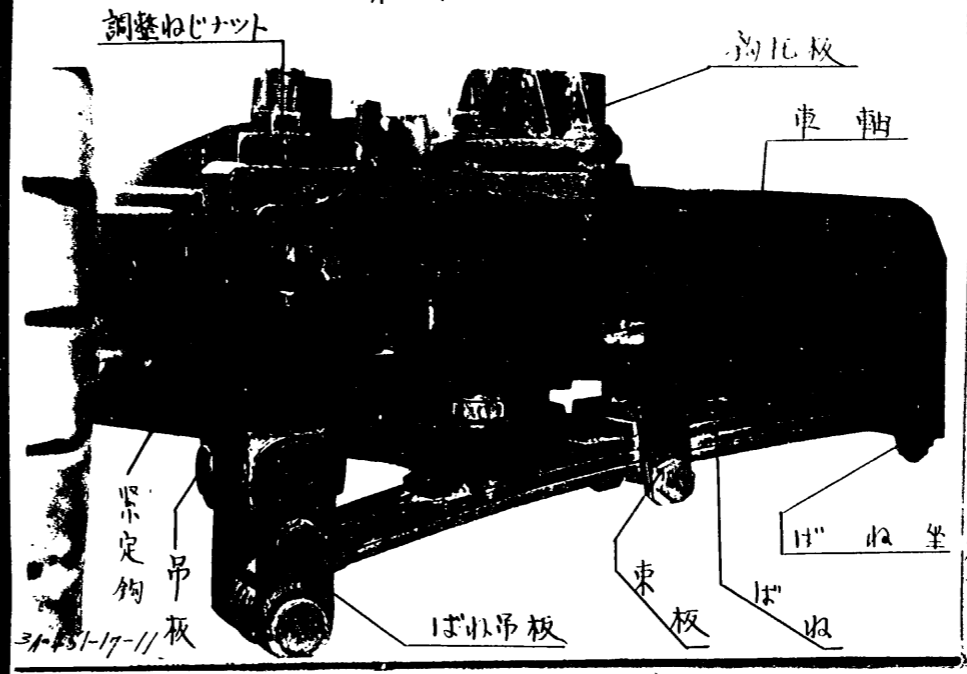
脚筒部ハ自由ニ旋轉シ得ルモノニシテ曲軸ト脚筒ハ此ノ部ニ於テ緩衝作用ノ作用ヲ得フルモノトス

曲軸ニハ垂直ニ孔ヲアケ之ニ脚筒ヲ以テ固定シ及脚筒板ヲ



トリツク緊定部ト仰托板ハ仰  
 輪ノ仰ニ接ヲ以テ運送シ仰托  
 板ヲ動揺セシメルコトニヨリ  
 仰輪ヲ中心トシテ緊定部ヲ擺  
 動セシムル如クナシアリ  
 仰托板ハ射撃ノ際閉鎖スルコ  
 トニヨリ海頭ニヨリ作動ヲ受  
 ケ前方ニ旋回セシメラレ緊定  
 部ヲ旋回セシメ海頭ノ先端部  
 部ニハマリコム如クナシアリ  
 テ之ト連結シ仰輪ノ作用ヲ  
 射撃姿勢ヲトル  
 之ト反対ニ開閉スレハ海頭ニ  
 ヨリ仰托板ハ外方ニ旋回セシ  
 メラレ緊定部ヲ旋回シ仰輪ト

第十二回



ノ軸止ヲ解キ仰輪ヲ以テ支へアルハ仰輪ヲ開放シ運行姿勢ヲトル、此  
 ノ際曲輪中央上部ニトリツケラレタル止板ハ海頭ノ移動ヲ制限ス  
 其ノ外方ニトリツケラレアル制限板ハ運行時ノ緩衝制限ヲナス

第二十六

軸ニ連結ス、他端ハ緊定部ト連結スル如キ突起部ヲ形成シ其ノ後部  
 ニハ調整ねじヲ介シテ吊板ヲ結合ス

吊板ニハ吊板輪ヲ以テばね吊板ヲ結合シ其ノ下部ニハばねノ一端ヲ  
 支持スル如クばね軸ヲ備フ

仍チ緩衝ノばねハ車輪軸ノ下方ノばね吊板ニ夫々ばね端ヲ支持セラ  
 レアリテばねノ中央部ニハ車輪ニ結合シアルヲ以テ以上ノ構造ニヨ  
 リ開閉スルコトニヨリ車輪軸ニ對シ小架以上ハ曲輪、軸(乙)ヲ支點ト  
 シテ重量カばねニ直接作用スル如クナリ茲ニ於テ運行時ノ緩衝作用  
 ヲナス

第二十七

砲車ニヨリ緩衝ばねノ壓力ヲ調整ノ要アリ、仍チ緊定部ト  
 軸輪ノ先端カ射撃準備姿勢ニ於テ一致セサルトキハ吊板ヲ介シテ輪



願上方ニ連接セラレアル調整ねじノ「ナット」ヲ緩メ之ヲ廻スコトニヨリ調整ねじヲ上下ニ移動シ軸腕ニ對シ吊板ヲ上下ニ規正シ之ヲ一致セシム

然ル後「ナット」ヲ緊定ス  
本調整困難ナルモノハばね通過又ハ過熱ナルニ因ルモノトス

#### 第八章 高低照準機

第二十八 高低照準機ハ小架ニトリツケラレアリテ第七圖ノ如キモノヨリ成ル、齒弧ハ第十圖ノ如ク「ボルト」ヲ以テ搖架ニトリツク

第二十九 高低照準機ノ機能

第七圖ニ於テ「ハンドル」ヲ旋回セハ之ニ連結スル起動軸ヲ經テ「ウーム」齒車ヲ回轉シ之ニ連結スル齒車軸ノ回轉ニヨリ齒弧ヲ上下セシメ搖架ヲ俯仰セシム

#### 第九章 方向照準機

第三十 方向照準機ハ小架ニトリツケラレタル支桿及脚頭軸(2)ニ支持セラレ構造及組成ハ第七圖ノ如シ

第三十一 方向照準機ノ機能

「ハンドル」ヲ旋回セハ起動軸、起動齒車、傳動齒車、傳動軸ヲ經主軸ヲ支點トシテ小架ヲ旋回シ脚頭架軸部ヲ中心トシテ方向移動ヲ爲ス

被筒(甲)ハ防護ヲ主目的トセルモノニシテ傳動軸ノ前進後退及小架回轉ニ伴フ主軸トノ位置ノ變化ニ應シ主軸通過部ニ溝ヲ附シ被筒(乙)(丙)ト相俟ツテ塵埃ノ侵入ヲ防止ス

#### 第十章 照準具

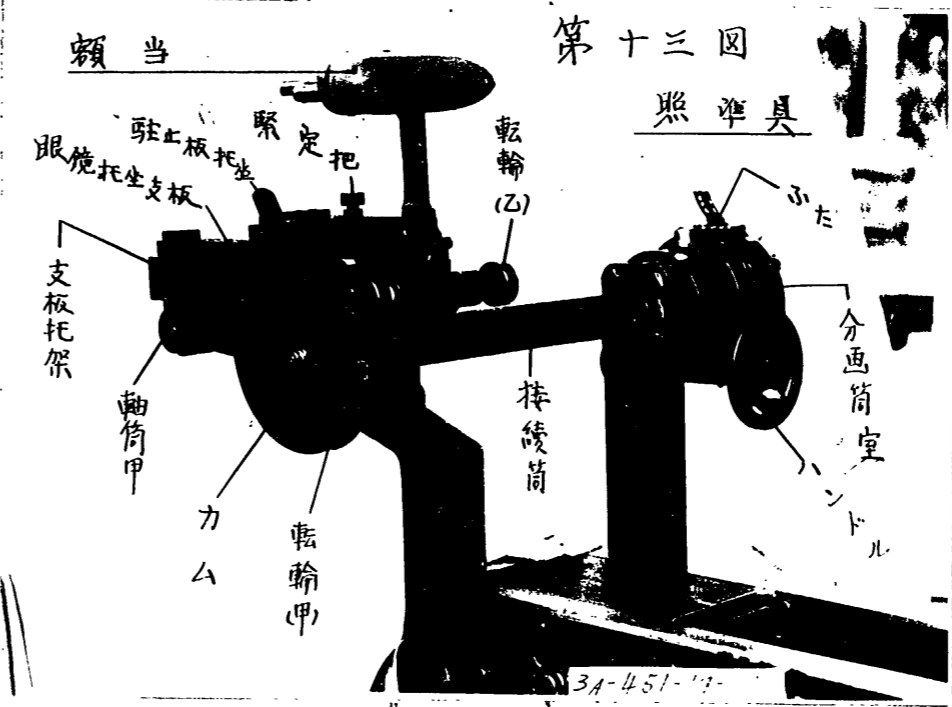
第三十二 照準具ハ第十三圖乃至第十四圖ノ如キ構造ヲ有シ一式機動四十七耗砲ノモノト同様式ナリ

第三十三 照準機ノ機能

一分畫筒「ハンドル」ヲ轉運及射距離ニ應シ「ふた」ヲ開キ分畫筒ノ目盛ヲ視キツツ旋回セハ「ハンドル」ハ「ウーム」(2)ヲ經テ「ウーム」齒車ヲ旋回シ誘導軸ヲ旋回スルト共ニ誘導軸右端ニトリツケラレタル分畫筒ヲ回轉シ高角ヲ示ス此ノ時旋回セラレ

タル誘導輪ハ左端ニ連結セ  
ル「カム」ヲ旋回ス  
「カム」ハ分畫筒ニ聯シ  
ころ軸ニトリツケアルころ  
ニ添シアリテ支板托架ノ眼  
鏡孔坐支板ノ眼鏡ヲ上下ニ  
移動セシメ高角ニ應スル眼  
鏡位置ヲトラシム  
次テ高低照準機「ハンドル」  
及方向照準機「ハンドル」  
ノ旋回ニヨリ目標ヲ眼鏡内  
ニ合シ照準スルモノトス  
射距離ノ測定ヲ終了セハ轉  
輪(乙)ニヨリテ緊定ス  
方向修正ハ眼鏡内分畫ノ外

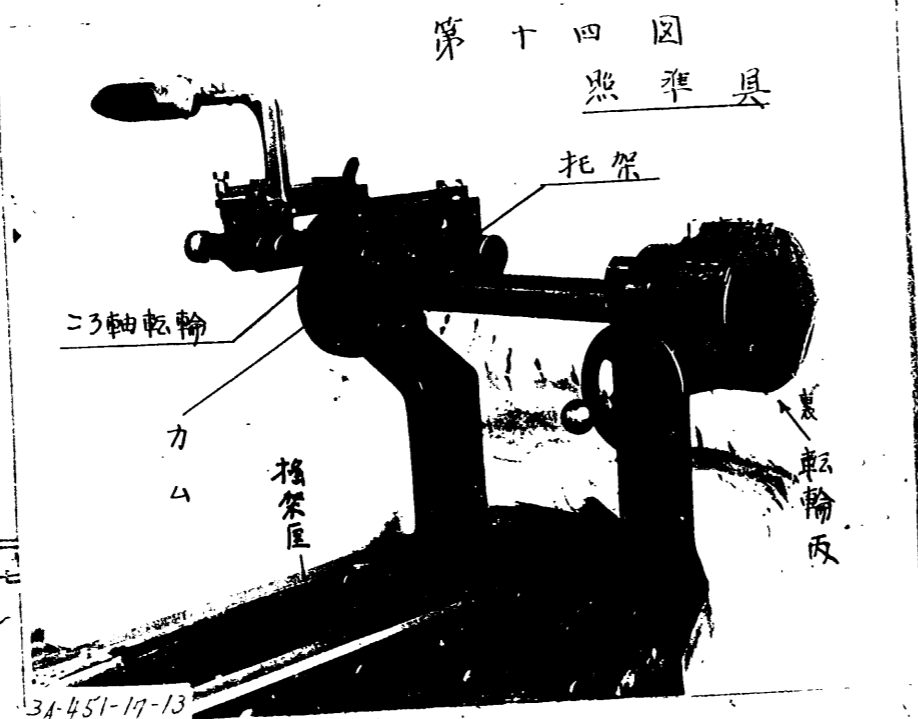
第十三圖 照準具



横尺分畫ニヨル

ニころ軸端ハ進行姿勢ノ際  
支板托架以上カ動揺シ「カ  
ム」ヲ損傷スルヲ防ク爲設  
ケラレアリテ「ハンドル」  
ヲ回轉シ支板托架ヲ最下位  
迄下ケ轉輪ヲ緊定スレハ轉  
輪ノ「ティーバー」部カ托架  
ノ「ティーバー」部ト接觸シ  
ころト「カム」ノ接觸ヲ解  
ク

第十四圖 照準具



第三十四 眼鏡ハ一式照準眼鏡  
(乙)ヲ使用スルモ代用照準具ト  
シテ九四式三十七耗砲用眼鏡  
ヲ使用スルコトアリ

一式照準眼鏡(四)ハ……倍率「四」、視界「七」度……ニシテ内部ニ  
 方向目盛左右各「二〇」密位(最小目盛「五」密位)高低目盛上  
 下各二〇密位(最小目盛「五」密位)ヲ有ス

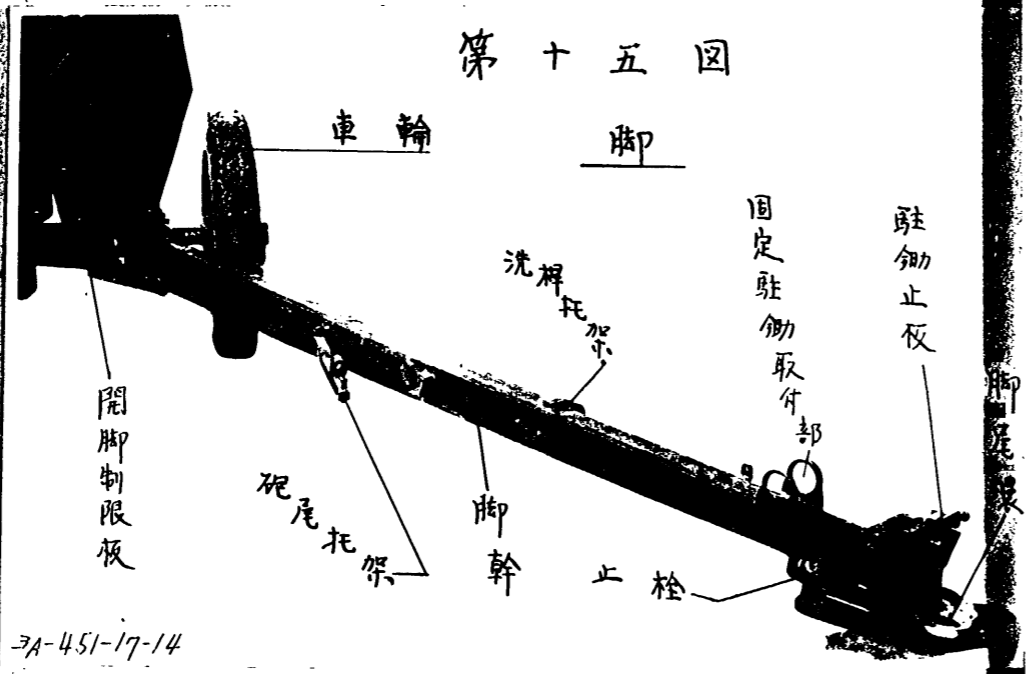
第十一章 脚

第三十五 脚ハ開閉式ニシテ第十五圖ノ如キモノヨリ成ル脚頭ハ第十  
 一圖ノ如ク上下ヨリ成リ脚頭軸ヲ以テ大架ニ連結シ脚幹トノ連結部  
 ニハ防塵板ヲ備フ  
 脚頭副板ハ運行及射撃姿勢ノ變換ニ供ス

第三十六 脚幹中央部ノ砲尾托

架ハ射撃時右脚ニ連結シ置ク  
 如クナシアリ  
 脚尾ハ打込式駐鋤ノ駐鋤匡ヲ  
 ナシ兩駐鋤上部ニハ駐鋤止板  
 ヲ夫々トリツケアリテ駐鋤ノ  
 下方突起部ト相俟ツテ運行時  
 駐鋤ノ固定ニ供シ射撃時ニ於  
 テ駐鋤中央突起ニカケ固定  
 射撃ヲナシ應急ノ間ニ合スコ  
 トヲ得  
 駐鋤上方ノ突起ハ軟質土等ニ  
 於ケル射撃ノ際駐鋤ノ拔上ヲ  
 防止スル爲止板ヲ裝シ固定ス  
 ルニ供ス

第十五圖



めくれず

3A-451-17-14

脚尾環ハ鞅引車ニ接続スルニ供シ結合架ハ横桿ニヨリ兩脚幹ヲ連結スルニ供ス

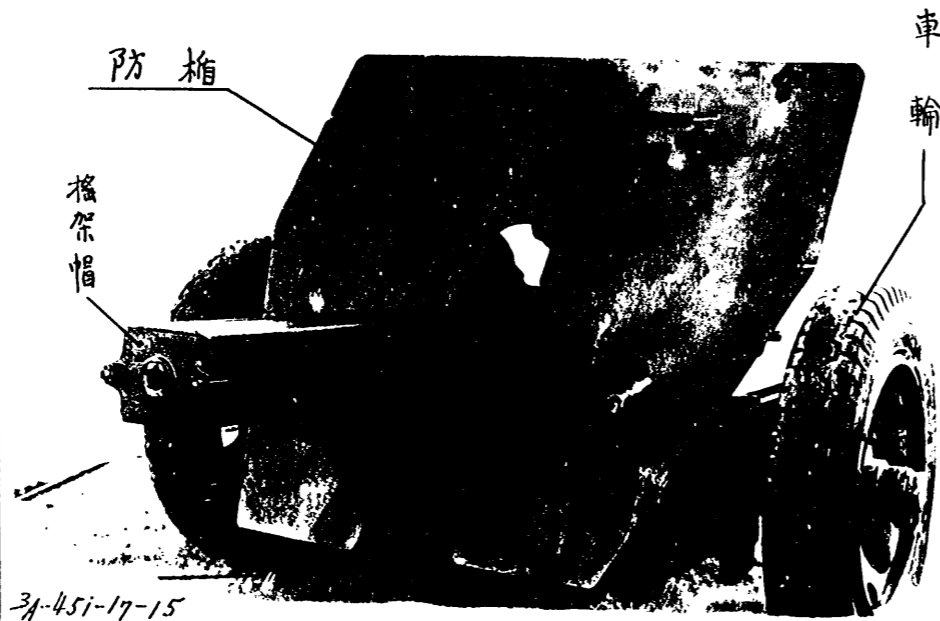
脚尾環はねハ鞅引車ト砲車トノ接合ヲ爲ス第一圖乃至第二圖ノ如キ位置ニ鞅ヲ使用スルトキハ「ハンドル」ヲ後方ニ旋回セハ偏心環ノ作用ヲ以テ駐動止板ヨリ駐動板ヲ離脱シ手力ヲ以テ後方ニ旋回ノ上「ハンドル」ヲ舊位置ニカヘシ駐動環ニ壓入スハ但シ甲銃砲ノミニ便用シアリ

第十二章 防 砲

第三十七 防砲ハ第十圖ノ如ク小架ニ托架(㊲)ヲ以テ結合セラレ第十六圖ノ如キ構造ヲ有ス

防砲ハ防禦力向上ノ目的ヲ以テスナル後斜ヲ附與シアリ

第十六圖



31-451-17-15

第三十八 軍用ハ第十六圖ノ如ク「バンダレスタイヤ」ヲ使用シ被  
ニヨル進行上ノ故障ヲ恒少ナラシメアリ  
引込ハ骨力較見ノ際曳索ヲカクルニ供ス

第十四章 部品及取付

第三十九 本砲ニ對シテスル取付品ハ附表第二ノ如キモノヨリ成ル  
第四十 逐復坐機分修工具ハ第五圖ノ如キモノアリ

第二節 取 扱

第一章 分解及結合

第一節 遵 則

第四十一 分解結合ハ構造機能ヲ良ク研究シタル後本砲ニヨリ徐々ニ  
行ヒ務シテ廻大ナル力ヲ加フヘカラス

第四十二 分解セル部品ノ結合ハ特ニ示セル場合ノ外分解ト反對ノ順  
序方法ニヨル

第四十三 左ノ部品ハ造兵廠ノ外分解スヘカラス

一 照準具 (托架共)

一 照 準 鏡

第四十四 左ノ各部品ハ精密手入、部品交換、修理等時ニ必要アル場  
合ノ外分解セザルモノトス

一 逐復坐機

一 高低、方向照準機

一 小架及大架

一 照 準 筒

一 「ボルト」、「ナット」、「割ピン」及係ニヨリ堅著シアル部品

第二節 砲 身

第四十五 砲身ニ着架ヨリ離脱スルニハ後坐尺遊標ヲ離脱シタル後砲  
身ヲ水平ニナシ逐復坐機トノ連結部連結桿「ナット」廻止ヲ

起シ「ナット」ヲ脱シ砲身ヲ徐々ニ後方ニ向ツテ離脱ス  
第四十六 砲身離脱ニ方リテハ左ノ點ニ注意スヘシ  
ノ後坐尺遊標ハ豫メ離脱シアリテ飛ハササル如ク注意ス

2. 砲身防護板ニ鋼ヲ掛ケ或ハ薄板ヲ挿入スルコトナク必ス準爪部ニテ支持スルヲ要ス

特ニ砲尾ニ近キ防護板ハ砲身重量ノ時上變至スルコト多キニ付注意スヘシ

3. 砲身分解結合ニ方リテ滑ヒ溜ヲ衝爪ニ掛ケサルヲ要ス衝爪ハ機部ヲナシ後方ニ離脱シ得ル如クナシアルヲ以テ脱落ノ虞アリ

4. 砲身ヲ半分以上離脱シ防護板部ヲ掃架後端ニテ支ヘ其ノ儘放置スルトキハ砲身長キ爲變至ヲ生シ或ハ掃架ノ機能保持上遺憾ニ付注意ヲ要ス

5. 分解ノ上台上ニ載セルトキ準爪部ノ下ニ支ヘホヲ入レルヲ要ス

第四十七 砲身結合ニ方リテハ次ノ點ニ注意スヘシ

- 1. 後坐尺遊標ハ離脱シアルヲ要ス
- 2. 衝爪ヲ脱落セシメサルヲ要ス
- 3. 前方ヨリ二番目ノ準爪ハ掃架匡ノ準梁ニカカリ前進ヲ阻害スルコトアルヲ以テ原因ヲ確カメ準爪ノ通過ヲ補助スルノ著意ヲ要ス

4. 連結桿「ナット」廻止ハ確實ニ裝シアルヲ要ス

第四十八 砲身結合ニ方リテ砲身完全ニ結合セラレサルトキハ次ノ點ニ就テ原因ヲ確カムヘシ

- 1. 連結桿ニ「ナット」ヲ緩シアルトキ
- 2. 異物介在セルトキ
- 3. 燒付ヲ生シアルトキ
- 4. 螺絲止金カ掃架ノ準板上ニ乗ラスカカリアルトキ之ハ機能不良ニ至クモノニシテ無理ヲスレハ止金折損ス
- 5. 閉鎖機ノ故障ニ基クモノ

第三節 閉鎖機

第四十九 閉鎖機ヲ砲身ヨリ離脱スルニハ砲身ヲ掃架ヨリ離脱スルカ

又ハ掃架後端ヨリ砲尾カ離脱スル程度ニ後坐セシメタル後(此ノ際砲身ハ概ネ水平ニナス)左ノ順序方法ニヨル(第十七圖参照)

- 一 安全栓ヲ發火ノ位置ニナス
- 二 鎖栓ヲ開キ壓筒ヲ一添ニ壓入シテ壓筒止輪ヲ滑ヲ引キツ百六十

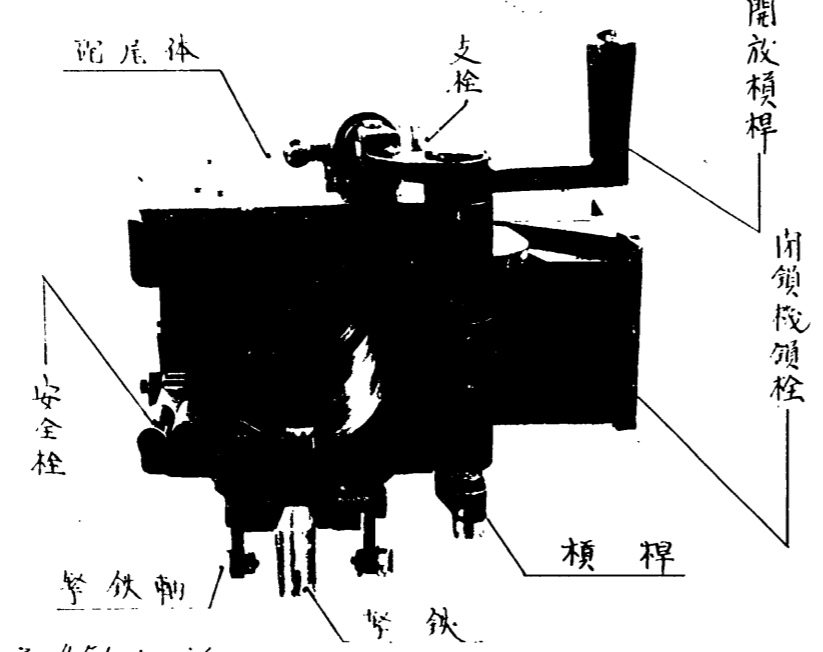
度旋回シテ脱止位置ニ至ラシメ逐筒ヲ脱止ス  
 三 開放横桿ノ下方ニ横桿軸ヲ介シ結合セラレアル横桿ノ「テーバー  
 ビン」ヲ抽出シ横桿ヲ下方ニ離脱ス  
 四 開放横桿ヲ横桿軸ト共ニ上方ニ抽出シ鎖錠ヲ若干引出シ開筒ヲ離  
 脱ス

五 抽筒子支錠ノ下方結合部ニアル止ねじヲ離脱シ支錠ヲばねト共ニ  
 上方ニ離脱ス  
 六 鎖錠ヲ少シ引出シ石手ヲ以テ抽筒子ヲ支へ乍ラ鎖錠ヲ抽筒子ト共  
 ニ右方ニ抽出ス  
 七 安全錠押金ヲ下方ヨリ廻ねじヲねじ戻シばねト共ニ抽出ノ上安全  
 錠ヲ抽出ス  
 八 環鎖軸ニ石方ヨリトリツケラレアル引鐵ノ「錠ピン」「ナット」  
 ヲ離脱シ引鐵ヲ右方ニ離脱ス  
 九 ニ環鎖止金ヲ上方ニ押し上ケ環鎖軸トノ鉤止ヲ解キタル後環鎖  
 軸ヲ左方ニ抽出シ環鎖ヲ離脱ス

(注意)

一 此ノ時止金ヲ折損セザル  
 如ク注意ヲ要ス  
 二 環鎖止金ヲ下方ヨリ廻ねじ  
 ヲ離脱スルコトニヨリばね  
 ト共ニ抽出ス

第十七圖



第五十 壓筒及閉鎖はねヲ脱スルニハ開放槓ヲ張シアル  
トキ閉鎖機ヲ閉鎖ノ位置ニナシタル後調整ねじ戻シ閉鎖はねヲ抽出  
シ開放槓及槓軸ヲ第四十九ノ方法ニヨリ離脱シタル上方ニ抽  
出ス

(注意)

1. 閉鎖はねハ本砲ニ於テ張力少ナルモノヲ便所シアリトモモ壓筒ヲ張  
鎖ノ位置ニナシ(閉鎖機開放ノ位置)其ノ位置調整ねじヲ離脱スル  
コトハ閉鎖はねニヨル危害豫防上避クルヲ要ス

2. 本分解ニ於テ開放槓ヲ分解スヘカラス仍テ緊定ねじヲ離脱ノ上  
開放槓ヲ槓軸ヨリ離脱スルコトハ爾后ノ機能上支障アリ

第五十一 螺蓋ヲ鎖巻ヨリ分解スルニハ指頭ヲ以テ螺蓋室底ヲ前方  
ニ壓シツツ九〇度旋回シ段部ノ吻合ヲ解キ之ヲ脱シ又テ螺蓋ト螺蓋  
はねヲ結合セルモノ及底ばねヲ抽出ス

次ニ螺蓋はねヲ壓縮シツツ「テーパーピン」ヲ脱シ螺針ヲ螺蓋ヨリ  
ねじ戻ス

(注意)

1. 螺蓋ト止坐及螺針ノ分解ハ特に必要アル場合ノ外行ハサルモノト  
ス

2. 螺蓋ヲ分解セル場合ハ常に「テーパーピン」ハ確實ニ挿シアルヤ  
ノ注意ヲ為ラセラル要ス

第五十二 開放槓ヲ槓架ノ準槓托架ヨリ離脱スルニハ次ノ順序方法  
ニヨル

1. 下方ヨリ結合シアル「ナット」ノ「制ピン」ヲ抽出シ「ナット」  
ヲねじ戻シばねヲ抽出ス

2. 開放槓ヲ上方ニ抽出ス

3. 「制ピン」トばね室ヲ上方ニ抽出ス

(注意)

1. 結合ノ際ハ「制ピン」トばね室及「ねじりねじ」ト開放槓  
ノ結合ノ確實ニテばねニヨル調整ヲ適當ニ為ス要ス

第五十三 結合ニヨリ調整ニ注意ヲ要スル點ハ次ノ如シ





(注意)

1. 砲身ヲ結合シアルトキハ分解工具ヲ使用セズ分解ヲナシ得

2. 結合ノ際ハ坐板ヲ倒ササルヲ要ス

紐ニテ復坐板ニ縛著シアルヲ可トス

3. 駐退管ノ抽出ニ方リテハ絶対ニ前方ニ立チ居ルヘカラス

第五十六 駐退管ヨリ活塞桿、節制桿結合体ヲ離脱スルニハ台上ニ横

タヘ次ノ順序方法ニヨリ分解ス

一 活塞桿「ナット」ヲ離脱シタル姿勢ニテ搖架帽トノ接合用「キー」

ヲ離脱ス

(注意)

1. 結合ノ際ハ「キー」ノ結合及結合位置ヲ忘却又ハ誤ラサルヲ要

ス

2. 活塞桿先端内部ノ塞ねじハ分解スヘカラス

ニ後方ヨリ連結桿石側面ニアル排氣孔ノ塞ねじヲ離脱シ駐退液ヲ收

容スル爲ニ「バケツ」ヲ準備ス

ニ後方「バツキン」押ねじノ止ねじヲ離脱シタル後「スパナ」ヲ以

テ後方「バツキン」押ねじヲねじ戻シ連結桿ヲ後方ニ引出シ後方

「バツキン」及「バツキン」抑ヲ抽出スルト共ニ内部ノ液ヲ「バ

ケツ」ニ収容ス

四 駐退管ヲカタムケ或ハ連結桿ヲ前後ニ數回往復セシメ内部ノ液等

完全ニ排出セラレハ活塞桿ノ頭部ヲ木箱ヲ以テ締打シ節制桿及

活塞桿結合体ヲ後方ニ抽出ス

此ノ時活塞桿頭部ニハ「ナット」ヲ緩シ締打スルヲ可トス

(注意)

1. 搖架帽接合用「キー」ヲトリツケタル儘分解セハ緊塞具ヲ毀損

スルニ付注意ヲ要ス

2. 活塞桿頭部ヲ締打スルトキハ連結桿ヲ手ニテ支ヘアルヲ要ス

然ラサレハ節制桿ハ活塞桿ヨリ突出シ地盤ニ衝突スルカ或ハ節

制桿屈曲等ヲ生起スルコトアルヘシ

3. 結合ノ際ハ砲身連結部ノ「キー」完全ニ挿入セラレアリヤヲ點

撤スルヲ要ス

各連隊連ノ結合位置ハ砲身退縮部ノ「キー」ノ位置及排氣孔ノ位置ニ照準アルヲ以テ確實ニシテ誤ラサル如ク注意スヘシ  
仍チ排氣孔塞ねじヲ右方ニナス如ク且「キー」ノ螺ト一致セシムル位置ニ於テ標線ニ合セ結合ス

第五十七 活退縮ヨリ節制桿ヲ離脱スルニハ次ノ順序方法ニヨル  
一節制桿ヨリ退縮桿ヲ離脱ス  
二仍チねじ着部ノ「割ピン」ヲ抽出シ戻ス  
三節制桿ノ止ねじヲねじ戻シタル後節制桿ヲ離脱ス  
四ねじカニ節制桿ヲ後方ニ抽出ス

(注意)

ノ分隊結合ニ方リ他物ニ衝突セシメサル豫備ニ注意スヘシ  
又結合ノ際ハ「割ピン」ヲ忘却セサルヲ要ス

第五十八 緊要具及節制桿頭部々品ハ特別ノトキ以外ハ分解スヘカラ

然シテ結合ノ際ハ次ノ點ニ注意スヘシ  
一節制桿ノ結合ハ正確ナルヲ要ス

二反對結合ヲハ不充分ナルトキハ復座ニ影響ス

三節制桿及節制桿「ナット」ノ「割ピン」ハ挿入シアラサルヤニ付點檢ス

第五十九 活退縮ハ消盡ナラシメタル後若干抽液シ置クヲ要ス(射撃  
筒復座不足ヲ生ヤシメサル爲ナリ)

第六十 活退縮ハ麻退復座液乙ヲ使用シ兵隊行政本部ヨリ購入スルモノトス

若シ購入不能ノ場合ハ左ノ液ヲ以テ代用スルコトヲ得

日本藥局方「グリセリン」二容  
ノ混合液一立ニツキ日本藥局方苛性「ソーダ」  
一瓦ヲ加ヘタル液

第五節 大

第六十一 大塚ノ分隊ハ其ノ分隊ヲ除ク他省略ス

第六十二 大架ヨリばねヲ離脱スルニハ兩脚ヲ開キタル姿勢ニ於テ扛上器ヲ以テばねヲ扛上シ之カ豫壓ヲ緩メタル後次ノ順序方法ニヨリ分解ス

一 左右何レカヨリばね吊板結合部ノ緊定「ボルト」ヲ螺脱シばね軸ヲ離脱ス

一 車軸ニ結合シアル部ノばね坐ヲ四本ノ「ボルト」ヲ螺脱スルコトニヨリ下方ニ離脱ス

一 次ニばねヲシテ残りタル一方ノばね軸ヲ中心ニ旋回シ下方ニ接地セシメルカ他ノ兵之ヲ支ヘ残りノばね軸ヲ螺脱シばねヲ離脱ス

第六十三 ばねヲ分解スルニハ次ノ順序方法ニヨル

一 ばね兩脚結合部ノ束縛ノ「ボルト」(即チ天々離脱シ束縛ニ上方ニ天々離脱ス)

(注意)

一 止輪ヲ紛失セサル如ク注意スヘシ

一 次ニ中矢部ノ「ボルト」(即チ)ヲ離脱ス

一 茲ニ於テばねヲ分解セラル

第二章 射撃準備及運行

第六十四 運行姿勢ヨリ放列ヲ布置スルニハ左ノ順序方法ニヨル(圖一 固定銃ヲ除キタル場合)

一 牽引車ヨリ砲臺ヲ離脱ス

一 各銃ヲ離脱ス

一 砲ヲ離脱シ砲尾托架ヲ離脱ス

一 左方ノ止輪ヲ退ハシ兩脚ヲ同時ニ開ク

一 開脚ヲ完了セハ即チ射撃姿勢ヲトル

(注意)

一 開脚動作困難ナルトキハ脚頭ニヨル車輪間ノ固定作用不良ナラ

サルヤヲ調整シ之カ原因ヲ探カメ掃ニ整備ニ長考ニナシアルヲ

要ス(射撃上ノ注意参照)

一 應急ノ處置トシテハ棒ニテコゴ上ケ固定スルコトヲ得

一 止輪止板ヲ旋回シ止輪ヲ自由ノ姿勢ニナシタル後底鋤ヲ打入ス

(注意)

めくれず

ノ隠針ノ場合ハ止板ヲ用ヒ隠針ニナシ射撃ヲ開始スルコトヲ  
得

六「ハンドル」ニヨリ砲身ヲ水平ニナス

七閉鎖機安全栓ヲ發火位置トナシ撃鐵ヲ上ケタル姿勢ニ於テ撃發機  
ノ撃發軸ヲ手力ヲ以テ前方ニ旋回セシメ飾ニ飾セシム

(注意)

八撃鐵ヲ下ケタル姿勢ニテ撃發軸ヲ旋回スルコト能ハサルヲ以テ  
良ク承知シアルヲ要ス

九撃發機故障ノ爲使用不可能ナルトキハ搖架匡右側ニトリツケア  
ル引鐵ニ引手ヲツケ發射ノ準備ヲナス、此ノ時ハ左方ノ撃發機  
ハ飾ヨリ解キアリテ後方ニ旋回ノ位置ニテ止栓ヲ緩シ撃鐵ヲ解  
クヲ要ス

ハ隠針ノ露出部ニ附著セル塵埃ヲ手袋若クハ木綿ニテ至急拭除シタ  
ル後開放槓桿ヲ引キテ閉鎖機ヲ開放ス

(注意)

ノ隠針ハ露出部多キニ付燒付ヲ生スル慮アルヲ以テ應急時ト雖モ  
ナルヘク手入スルヲ可トス

六照準具類當ヲ調節シテ既定ス

七撃發機安全栓ヲ安全ニナス

八後坐尺遊標ヲ前方ニ位置セシム

九照準具ころ軸轉輪ヲねじ戻シ蓋板ヲ閉キ後方ノ轉輪ヲねじ戻シタ  
ル後「ハンドル」ヲ回轉シ所望ノ高角ヲ附與ス

第六十五 放列撤去ハ放列布蓋ノ概ネ反對ノ順序方法ニヨル  
但シ次ノ點ニハ注意スヘシ

一開放シタル鎖栓ヲ閉鎖スルニハ閉鎖ばね室ノ側方ニアル抽筒子支  
柱ヲ外方ニ引キテ閉鎖ス本閉鎖不良ナルトキハ開放槓桿ヲ一杯ニ

引キ放ツト同時ニ強く支栓ヲ引ケハ容易ナリ

二撃發軸ヲ飾ヨリ離脱シ旋回シタル姿勢ニナシばねヲ伸張セシメ置  
ク

(注意)

各機能保持上解放シタル姿勢ニナシアルヲ要ス  
引手ヲ使用セルトキハ引手ハ離脱シアルヲ要ス  
四 照準具ハ完全ナル運行姿勢ニナシアルヲ要ス  
仍チ「ハンドル」ヲ廻ハシ竝姿勢ニナシテ軸轉輪ヲ緊定シ動搖  
セシメサルヲ要ス

第六十六 臂力輓曳ノ際ニ於ケル放列布置撤去ハ前項ニ準シ行フモ  
ノトス

但シ其地裏及臂力輓曳ノ際ハ左ノ順序方法ニアルヘシ  
一 閉鎖機及撃發機ノ安全装置ヲナス

二 閉鎖機ノ運行姿勢ニナス  
三 閉鎖機ハ通常閉脚スルモ必要ニ應シ開脚ノ儘前進スルモ可ナリ又砲尾  
托架ハ裝セサルモ可ナリ

四 見索ヲ車輪引環ニ掛クルコトヲ得

第三章 運行上ノ注意

第六十七 運行前ハ第二篇第二章記載ノ射撃準備及運行ニ依リテ砲ノ

運行姿勢ヲトリタル後左ノ點ニ就キ各部ノ點檢ヲナスヘシ

一 大架ノ折損又ハ衰損シアラヌヤ

二 脚止添ノ機能ハ良好ナリヤ

三 脚尾環ノ屈曲、折損及同は折損、衰損ナキヤ

四 砲尾托架ノ緊定ハ良好ナリヤ

五 方向照準機檢筒止メ脱着シラザルヤ

六 撃發機各はハ伸張セシメアリヤ

七 安全栓ハ確實ニ緩シアリヤ

八 照準具ハ運行姿勢ニナシアリヤ

九 照準具ハ運行姿勢ニナシアリヤ

十 砲身結合ハ確實ナリヤ

十一 車輪ノ「ボス」帽ノ結合確實ニシテ「ボス」止環ノ機能良好ナリ

ヤ否ヤ

十二 後坐尺遊標ハ前方ニナシアリヤ

十三 眼鏡ハ離脱シ別箇ニ運行スルヲ可トスルモ急ヲ要スル場合ハ裝著

第六十八 進行ニ方リ脚尾ノ止込機能不具ナルトキハ進行間脚ノ脱  
スルコトアルヲ以テ常ニ整備ヲ良好ニナシアルヲ要スルモ願急ノ處  
據トシテ鉋金若クハ綱類ヲ以テ縛著スルヲ要ス

第六十九 進行中ハ機會アル度毎ニ前記ノ點檢ヲナスハ勿論次ノ事項  
ニ注意スヘシ

一 進行間ハ打撃セルトキハ砲車ノ動搖著シク直チニ異状ヲ發見シ  
待ルヲ以テ常ニ監視シアルヲ要ス

二 ばね折損ノ状態ニ似タル故障ニテハ吊板、調整ねじノ折損シア  
ルコトアリ、本故障ハ發見シ難キモ曲軸ト車軸ノ位置差度ニ差  
アルトキ注意スヘシ

三 車輪ノ軸心部ニ熱ヲ持ツテ居ラサルヤ  
又ハ「グリース」ノ流出ナキヤ

四 本機後過度ナルヲ發見セハ分解ノ上點檢スヘシ  
四 防錆支桿折損又ハ龜裂ナキヤ

五 防振支桿取付部ノ弛緩、動搖ナキヤ  
六 吊板調整ねじノ「ナット」脱落又ハ緩解ナキヤ

七 方向照準機被筒止ねじノ脱落ナキヤ  
八 ばね吊板調整ねじノ「ピン」脱落シアラサルヤ

九 緊急軸止輪脱落ナキヤ  
十 各部ノ「ティーバーピン」「割ピン」「キー」ノ脱落ナキヤ

第七十 進行間ノ安全ハ警鐘ヲ起シタル位置ニテ安全檢ヲ以テ安全位  
置ニ決定スヘシ

第七十一 警鐘運行ニ方リテハ自動警鐘通過可能ナル箇所ハ何等運行  
上ノ願慮ヲ要セス進行ヲナシ得ルモノトス

但シ脚ヲ牽引車ニ接觸セシメサル如ク注意スヘシ  
逆行ノトキハ特ニ然リ

第四章 射撃上ノ注意  
第一節 射撃前ノ注意

第七十二 射撃前ハ各部ヲ點檢整備スヘキハ勿論ナルモ左ノ諸件ハ特

- ニ必要トス
- 一 各種要部ニ給油シ閉鎖機開閉機能、發機機能、抽筒機能、方向照準機ノ機能ハ特ニ整備スヘシ
- 二 閉鎖機擊室各部ノ手入機能共良好ナリヤ否ヤヲ點檢スヘシ  
 燈渣凝結セルトキハ不發ヲ生スルコトアルヘシ
- 三 砲腔内及後坐尺ハ拭淨シ置クヘシ
- 四 注退機ノ液洩レ等ヲ檢シ要スレハ緊塞ヲ確實ニシ或ハ液ノ補充ヲ行フヘシ
- 五 閉鎖機壓筒ノ手入ハ充分スヘシ、漏出部多キ爲塵埃附着シ燒付ヲ生スルコトアルヘシ
- 六 擊鐵止金及同はねノ機能ヲ點檢シ折損ノ有無ヲ點檢ス
- 七 後坐衝爪ノ脱落ナキヤヲ點檢ス
- 八 開放桿桿ころ軸ノ機能良好ナリヤ點檢ス（龜裂、折損、ころノ廻轉不良、脱落等）
- 九 砲身滑走部ニハ燒付防止ノタメ適當ニ給油スヘシ

- 六 砲身ト座退機ノ結合確實ナリヤ
- 七 方向照準機ノ後筒ノ主軸導線部ハ時々手入ヲ要ス
- 八 照準具ノ機能良好ナリヤヲ檢シ特ニ眼鏡接線部擊室ノ打痕、反起及「カム」ノ手入良好ナリヤニ注意ス
- 九 直射發線筒ノ頂ニ示セル標幟方完全ニ實施セラレアルヤ否ヤ
- 十 直射發前爲シ待レハ照準機發ヲ實施スヘシ
- 第七十三 射擊姿勢ヲ附與スル際開閉困難ナルトキハ次ノ點ニ付點檢ノ上修正スヘシ
  - 一 射撃機ノ折損又ハ衰減セルトキ
  - 二 射撃機ノ吊環等ノ調整又ハ調整不良ノトキ
  - 三 照準具ノ調整部、大英等ノ故障アルトキ
  - 四 大英各部ノ結合不完全ナルトキ
- 第七十四 射撃機ヲ稍々長時間ニ亘リ行フ場合ハ射撃機ノ開閉ヲ利用シテ各部ノ故障、緩急等ノ有無ヲ檢シ要スレハ鎖栓機動面其ノ他ニ給油



スヘシ

又装スレハ砲腔内ヲ拭淨スヘシ

第七十五 射撃準備及射撃間操砲上注意スヘキ事項ハ次ノ如シ

一 射撃ニ万リテハ引手ハナルヘク使用セサルヲ可トス

真ニ止ムヲ待サルトキノ他ハ撃發機ノ故障ハ速カニ修復スルヲ要ス

二 撃發機ヲ操作スルトキハ撃發止金ヲ折損セサル如ク次ノ點ニ注意ス

一 砲身分解時ハ撃發機ヲ操作スヘカラス、必要アルトキハ止金ヲ撃

發機軸ヨリ押シ上ケ鉤止ヲ解キタル後實施スヘキ

二 砲身完全ニ閉鎖シアラサルトキモ亦同シ

三 撃發機押桿ハ發射ト同時ニ速カニ離スヲ要ス然ラサレハ撃發準備

姿勢ニ復セサルモノナリ、

四 砲身分解時ハ搖架帽ヲ絶對ニ分解セサルヲ要ス（構造機能熟知ノ

コト）

五 注液孔ノ位置ハ砲尾結合位置下方部ノ搖架匡左側面ノ圓孔ニシテ

排氣孔ハ相當部右側面ノ圓孔ナリ、内方ニ夫々窓ねじヲ以テ閉塞

シアアルヲ以テ此ノ圓孔ヨリ「スパナ」或ハ注液「ポンプ」ヲ挿入

ノ上注液又ハ排氣スヘシ

六 射撃間一時「安全」ニスルニハ閉鎖機安全栓、撃發機安全栓ノ兩

者ヲ安全位置ニ持チ來スヲ可トスルモ何レカ一方ノミヲ安全トス

ル場合ニアリテハ閉鎖機安全栓ヲ使用スルヲ可トス

七 彈藥筒裝填ニ万リテハ砲手ハ不時ノ發火ニヨル危險ヲ顧慮シ砲身

後坐ニ接セサル如ク位置スヘシ

八 砲身復坐ノ不足ハ緩ヒ小量ナリト雖モ裝填ヲ妨クルヲ以テ手力ヲ

加ヘ完全ニ復坐セシムヘシ

九 射撃間不發若クハ他ノ理由ニヨリテ撃發機ヲ壓下スルトキハ撃發機ヲ

一度起シ撃發機ヲ操作シ餉ニカケル必要アリ（構造機能参照）

第七十六 射撃間ハ時々後坐長ニ注意シ後坐長一米二一〇以上ナル場

合ハ原因ヲ探究シ其ノ處置ヲナスヲ要ス

一 後坐長ノ過大ナル原因概ネ左ノ如シ

1. 後坐尺遊標ノ滑リニ原因シ實際ヨリ過大ナル表示ヲナスコトアリ

2. 駐退液ノ不足セルトキ

3. 酷暑時或ハ液温上昇ノ爲駐退液粘度低下セルトキ

4. 駐退液不純ナルトキ（例ヘハ「スピンドル」油混入セル等ノ場合）

5. 準筒漏孔部衰損セルトキ

6. 節制環衰損セルトキ

7. 急激ナル復坐ノ原因概ネ左ノ如シ

1. 駐退液ノ不足ナルトキ

2. 駐退液ノ粘度低下セルトキ

3. 駐退液不純ノトキ

4. 復坐節制環ノ結合不良ノトキ

5. 準筒漏孔衰損セルトキ

二 後坐長不座又ハ過少ナル原因概ネ左ノ如シ

1. 後坐筒爪脱離セルトキ（分巻結合ノ際）

2. 準筒ノ焼付及同漏孔ノ溢キモノ

3. 異物介在セルトキ

4. 酷暑時ニ在リテ駐退液ノ粘度増加セルトキ

5. 駐退液不純ニシテ粘度増加セルトキ

6. 節制環「テーパー」部ノ焼付

7. 節制環ノ焼付

三 復坐後轉動ハ復坐不足ノ原因概ネ左ノ如シ

1. 搖架帽ノ軸心ニ偏移アルトキ

2. 準筒ノ漏孔不適合ノトキ

3. 搖架筒内ニ異物介在セルトキ

4. 復坐はね衰損又ハ折損セルトキ

5. 駐退液粘度増加セルトキ

6. 復坐はね坐板倒レアルトキ

各部分ノ燒付、異物介在セルトキ

閉鎖機ニ在リテ閉鎖機及砲身ト摺架トノ間ノ塗油過多ニヨリ凍結セルトキ

熱地又ハ多量彈發射ニ基ク液ノ膨脹

多量彈發射ニ基クモノハ後坐長ニ著シキ變化ヲ及ボサスシテ復坐不足ヲ生シ手力ヲ以テハ復坐シ得サルヲ以テ他ト識別スルヲ得ヘシ

之カ修正ハ注液孔塞ぬじ又ハ排氣孔塞ぬじヲ弛メ液又ハ空氣ヲ少量噴出セシムヘシ

第七十七 藥筒不發火ナルトキハ不時ニ發火スルモ危険ナラザルニ注意

ヲトリ發射機ヲ飾ニカケ再ヒ桿頭ヲ押スヘシ尙不發ノ場合ニハ約三

〇秒時經過シタル後徐々ニ閉鎖機ヲ開キ各部ヲ點檢スヘシ

藥筒不發火ノ原因概ネ左ノ如シ

一 藥筒ノ衝撃力不充分ナルトキ

二 發射機ノ衰損又ハ折損セルトキ

2. てこ折損又ハ結合不良ナルトキ

一 擊莖尖頭ノ突出量少ナルトキ又ハ折損及變形セルトキ

二 塵砂又ハ「ガス」塵渣ノ浸入積レルトキ

三 擊莖止坐摺合せ不良ノトキ

四 嚴寒ノ爲塗油凝結セルトキ

五 爆管ノ噴劑又ハ火藥燼渣カ擊針孔ニ固著シ擊莖ノ突出ヲ妨クルトキ

六 爆管ノ噴劑過多、爆管ノ吸入度過度ナルカ又ハ爆管ニ故障アルトキ

第七十八 發射機發射不能ナルモノノ原因概ネ左ノ如シ

一 可撓軸ノ衰損、屈曲、折損セルトキ

二 鉤ノ發射機軸部カカリ過キトキ（鍍削修正ス）

三 擊發機ノ衰損、折損セルトキ

四 てこ不良ナルトキ

五 鉤ノ衰損ニヨル發射機軸カカリ不良ノトキ

- 六 露發機各部ノばね折損、衰損セルトキ
- 七 槓桿ノ結合ヲ誤レルトキ
- 八 傳導索ノ頭部衰損シ可撻軸受ヨリ脱シタルトキ
- 九 可撻軸受ノ結合誤リシトキ
- 十 可撻軸ニ對シ傳導索過長ナルトキ
- 十一 各部品ノ衰損、反起、變形、結合不良ヲ生セルトキ
- 十二 手入不良ノ爲塵埃附着セルトキ
- 十三 其閉鎖機ノ故障ニヨルモノ

第七十九

- 一 槓桿ノ不良ニ由ル變損、衰損、變形又ハ脱落セルトキ
- 二 開放準板ノ衰損、變形ニヨルカカリ少ナルトキ
- 三 全ばね折損、衰損ニヨル機能不良ノトキ
- 四 鎖栓其ノ他ニ燒付ヲ生シ或ハ異物介在セルトキ
- 五 抽筒子ノ不良ニヨル鎖栓ノ脱止不良ノトキ
- 六 壓筒ノ燒付及閉鎖ばねノ過弱又ハ折損セルトキ閉鎖不良

七 以上ノ故障アルトキニ閉鎖ばねノ過強併起セルトキ  
 八 抽筒子支栓ニヨル手動閉鎖不良ナルトキ又下部抽筒子ノ摺合セ不良ナル場合アリ

第八十 抽筒不良ナル原因概ネ左ノ如シ

- 一 後復坐過度ニ緩慢ナルトキ
- 二 閉鎖ばね過強ノトキ(漸閉鎖シ得ル程度ニナスヲ要ス)
- 三 壓筒ニ燒付ヲ生セルトキ
- 四 鎖止金機能不良ナルトキ又ハ擊鐵押金機能不良ナルトキノ擊鐵反跳ニモトツク藥莖抽出ヲ妨害スルトキ
- 五 藥莖ノ燒付
- 六 抽筒子ノ衰損、變形、毀損セルトキ
- 七 開放準板ト槓桿ノカカリ不充分ナルトキ
- 八 開放準板ばね離脱セルトキ又ハ折損、衰損ニヨル機能不良ナルトキ

九 自動閉閉不良ニ起因スルモノ

第八十一 射擊間腔退液ノ漏出スル原因概ネ左ノ如シ

- 一 「パツキン」ノ不良又ハ衰損セルトキ

一 注液孔塞ねじノ緊定不充分又ハ同「パツキン」カ衰損セルトキ  
二 後方「パツキン」押ねじノ緊定不充分又ハ同「パツキン」カ衰損セルトキ

三 活塞桿選ねじ及坐板ノ緩解又ハ緊定不充分ナルトキ

第八十二 復坐ばねハ選至ヲ生シ全長短縮スルコトアルモ其ノ張力著シク減セサル限リハ尙復原スルコトヲ待ヘシ

其ノ程度ハ完全ニ復坐シ得ルヲ程度トス尙離寒地ニ在リテハ特ニ注意スヘシ

復坐ばねノ折損ハ砲身ノ復坐量頓ニ不足スルカ或ハ後復坐間搖架内ニ於テ軋音ヲ聞ク等ニヨリ之ヲ推知スルコトヲ得

第八十三 脚ヲ他物ニ衝突セシメ或ハ重量物ヲ載スル如キコトナキ様注意スヘシ

然シテ脚頭、脚尾ノ機能ハ常に完全ナルモノ状態ニ整備シアラヌ

第八十四 高低照準機ノ機能不良ナルトキハ無理ニ操作スルコトナク

擊發機ノ故障ト併セ點檢シ可機軸等ノ損傷ナキ如ク注意スヘシ  
然シテ之カ主ナル原因次ノ如シ  
一 擊發機ノ故障ニヨルモノ  
二 砲身ノ結合不完全ニシテ重心位置ノ偏移セルトキ  
三 各施油部ニ脂油不足セルトキ  
四 齒弧部ニ塵埃、異物介在セルトキ  
五 齒車他各部ノ磨損、反起、變形ヲ生セルトキ

第八十五 方向照準機ノ機能不良ナルモノノ原因概ネ次ノ如シ

一 托板ノ變歪及變位セルトキ  
坐板ヲ入レルカ工廠修理ニ提出ス

二 齒車室ノ兩側ヨリねじ込ミアル小ねじノ緊定不良ナルトキ  
ノ兩方ノ小ねじヲ平均ニ緊定ス

三 小ねじヲ齒車室ノ隙ノ通り緊定シ直ス

四 齒車ノ變形、反起ヲ生セルトキ

五 兩齒車ノ關係位置不良ナルトキ

例へハ傳動齒車ノ前後ニ對スル遊隙ニ對シ起動齒車ノ遊隙ナキト  
キハ兩齒車ノ嚙合セ位置偏移スルヲ以テナリ

此ノ時ハ點檢スレハ容易ニ發見シ得ルヲ以テハ但シ起動齒車側ニ  
遊隙少ナル場合多シ傳動齒車ニ坐板ヲ入レルカ起動齒車側ノ軸  
筒ヲ鑿削修正シ遊隙ヲ平均ニナスヲ要ス

五 空轉スルトキハ齒車ノ「アイバ」ピン」折損シアリ

六 「アイバ」ピン」カ抜ケ出テ齒車室ニ塵埃シアルトキ

七 異物、塵埃介在セルトキ

八 各施油部ニ脂油不足セルトキ

九 其ノ他各部ノ磨損、反起、歪歪ヲ生セルトキ

第八十六 照準具分畫筒室ノ内部ニ故障アリテ之ヲ點檢スルニハ蓋板  
ヲ開キ小ねじヲ戻回スレハ副板ヲ上方ニ離脱スルコトヲ得

第三節 射撃后ノ注意

第八十七 射撃后ハ左ノ件ニ注意スヘシ

一 射撃后ハ各部損傷ノ有無ヲ檢査シ異狀アルモノハ其ノ原因ヲ探究

シテ手入若クハ修理等ノ處置ヲナスヘシ

二 「ガス」煙渣ハ射撃后砲身全ク冷却スルニ至レハ腔壁ニ膠著シテ

其ノ除去益々困難トナルモノナレハ成ル可ク速カニ手入スルヲ要ス

而シテ洗滌ニハ腔中油或ハ硼砂溶液ヲ使用シ充分煙渣ヲ除去スヘ

シ

若シ射撃后直チニ手入ヲ行フ能ハサル時ハ洗滌后稍々多量ノ腔中

油（或ハ「スピンドル」油）ヲ塗布シ置キ腔中腐蝕ノ程度ニ應シ

テ數時間以上經過シタル後手入ヲ行フヘシ

三 閉鎖機各部ニ附著セル煙渣モ前項ニヨリ手入ヲ行フヘシ

第三篇 保存

第八十八 兵器保存要領ニ示ス所ニ從ヒ日常ノ手入ヲ實施スヘシ

（細部ハ略ス）

第四篇 檢査

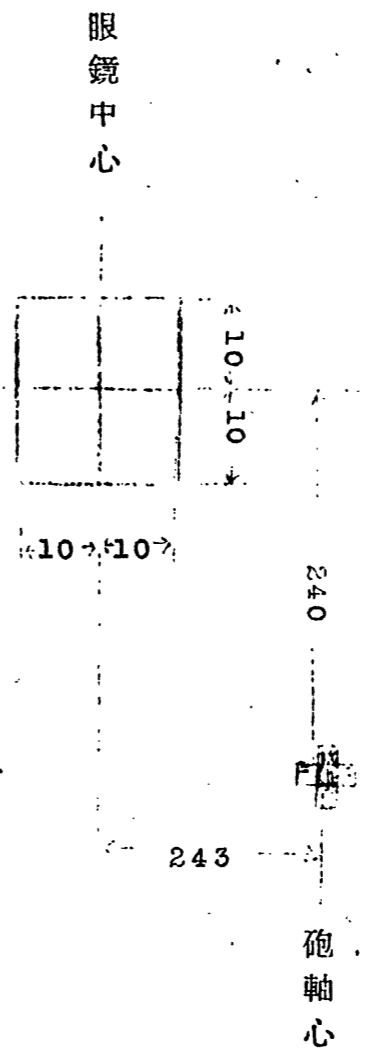
第一章 一般檢査

第八十九 檢査ハ第二篇取扱ノ部ニ於テ述ヘタル注意事項ニ留意スル

ノ外兵器保存要領ニ準シテ實施スヘシ  
(細部ハ略ス)

第二章 觇線發至

第九十 觇線發至用標的ハ左ノ要領ニ據ル



「十字」ノ太サハ「一〇」耗程度、長サハ「一〇〇」耗程度トス

第九十一 觇線發至ノ要領ハ左ノ如シ

一 砲口及砲尾ニ「十字」線ヲ設ケテ照準機ヲ操作シテ砲身軸ヲ標的

ノ砲軸心ノ「十字」ニ一致セシメタル後照準具横尺及高角ヲ零ニ  
ナシタル位置ニテ眼鏡ヲ検査シ標的ノ「十字」ニ眼鏡軸ヲ見出ス  
此ノ際「十字」内ニ一致セサル時ハ照準具ノ修正ニ依リテ上下左  
右ノ修正ヲ行フモノトス

(注意)

ノ高角ハ射距離目盛ト混同セサル如ク注意スヘシ

試製機動五十七耗砲説明書終り

附表第一

試製機動五十七耗砲主要數量表

砲身	結	口徑	全長	腔	重	閉鎖機	重	樣式	重	螺針前進量
單肉自緊	五七耗	三米二五五(五七口徑)	等齊楔狀右旋	二〇	一號砲 六度五〇分 二號砲 五度三〇分	自動開閉水平鎖栓式	二八〇斤〇〇〇	二七耗二五〇	三・五耗	三・五耗



駐退復坐機

樣式

水壓式

後坐樣式

定後坐

後復坐秒時

一、六一、〇秒

駐退液種

駐退復坐液乙

規定量

三、九立

規定後坐長

一米一〇〇乃至一米二五〇

製作上ノ最大後坐長

一米二九二

照準機

高低射界

正一九度至六度一〇分

方向射界

約四七度

運動性

放列砲車全長

五米五四〇

重量 (固定駐鋤共 打込駐鋤ヲ除ク)

一屯〇八〇

發射砲車架尾座 (固定駐鋤共)

八六瓩

全長

五米五六〇

輪間距離

一米五〇〇

車輪外徑

〇米八三〇

還搬樣式

機械牽引



駐 退 復 坐 機											
後方	「バツキン」	復坐ばね	(左右巻)	ばね	坐板	ばね	元ばね	ばね室	「バツキン」	「バツキン」	當金(大小)
各	二	一	一	一	一	二	二	二	二	二	各
前方	「バツキン」	割	「ピン」	活塞	桿	「キー」	機	復坐	節	筒	一
六×五五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一

閉 鎖 機											
閉鎖	鐵	止	金	鐵	軸	ころ	開放	積	桿	ころ	開放
鐵	止	金	鐵	軸	ころ	開放	積	桿	ころ	開放	積
一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
軸	共	軸	共	軸	共	軸	共	軸	共	軸	共
「ナット」	割	「ピン」	共	止	桿	「バ」	止	軸	滴	ばね	「デーバーピン」
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
排氣	孔	塞	ね	じ	「バツキン」	排氣	孔	塞	ね	じ	「バツキン」
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
連	結	桿	ば	ね	「ナット」	通	止	ば	ね	ば	ね
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
ば	ね	じ	り	ば	ね	ば	ね	ば	ね	ば	ね
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
歴	筒	止	ば	ね	ば	ね	ば	ね	ば	ね	ば
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
閉	鎖	ば	ね	ば	ね	ば	ね	ば	ね	ば	ね
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
積	桿	ころ	開放	積	桿	ころ	開放	積	桿	ころ	開放
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
開放	積	桿	ころ	開放	積	桿	ころ	開放	積	桿	ころ
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
鐵	軸	ころ	鐵	止	金	鐵	軸	ころ	鐵	止	金
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
鐵	止	金	鐵	軸	ころ	鐵	止	金	鐵	軸	ころ
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一



